北海道新聞（苫タ）
2014.06.02

ハスカップは世界的資源

■苫小牧でフォーラム

勇払原野の保全討論

工業地域でありながら豊かな自然の残る苫小牧東部地域で自生するハスカップの保全や活用について考えるフォーラムが5月31日、苫小牧市内で開かれた。市民ら約60人が同地域を含む勇払原野の将来に思いをはせた。（荒井友香）

パネル討論でハスカップの将来について語り合う（右から）草苅さん、原田さん、山口さん、大西さん

環境コモンズ研究会（座長・小磯修二北大公共政策大学院特任教授）とNPO法人苫東環境コモンズの主催。北大大学院農学研究院の鈴木卓准教授が講演し「自生するハスカップは世界的に貴重な遺伝資源」と語った後、同法人の草苅健事務局長が保全活動を紹介した上で「市民から『ハスカップとわたし』と題したエッセーを集めるなどして記録を残したり、風土をまるごと保全するような担い手を育てたりしてはどうか」と今後に向けて提案した。

ハスカップファーム山口農園（厚真）の山口善紀園長と、日本野鳥の会で勇払原野保全を担当する原田修さん、女性みなと街づくり苫小牧の大西育子代表、草苅事務局長によるパネル討論も行われ「価格や品質が商品開発や流通のハードルになっているのであれば、加工専用のハスカップ生産を考えても良いのでは」「勇払原野の湿原は希少鳥類にも大切な場所だ」などと語り合った。